

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

8
2017
AUGUST

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



中山 英敬

中山英敬氏



広中
バネリ

鋤柄 修氏・広浜泰久氏



佐藤 全氏

中同協第49回定時総会

世界を見据え、地域に生きる
～中小企業と同友会の強みを活かして～

行政と共に地域を経営

ここに生まれて良かったと実感できる地域をつくる

8月例会のご案内

地域社会の主役としての
自覚と誇りを持つとう！
（経済を牽引するのは私達だ）

世界を見据え、地域に生きる ～中小企業と同友会の強みを活かして～



7月6～7日、名古屋国際会議場に於いて、中同協第49回定時総会が開かれ、全国47同友会と中同協から1600名が集い、山形からも7名が参加しました。

「世界を見据え、地域に生きる」をスローガンに一日目

(株)サニックス 代表取締役 佐藤 啓

「世界を見据え、地域に生きる」のテーマのもと、愛知で開催された定時総会に参加してきました。全国各地より1400名を超える会員が集まり、大勢の熱気で熱い2日間となりました。

私は、東京同友会(株)吉村 橋本社長の企業づくりに関する分科会に参加してきました。「ひらがな経営で社員がキラリ」というタイトル通り、女性経営者ならではの視点で、愛情あふれる、きめの細かい経営の実践報告に大変感動しました。

冒頭に行動するには目標と目的を同時に持つことが大事という話がありました。結果よりもプロセス、行動が重要、全社員が行動できる様に、全員と目線を合わせ、わかりやすく平易に伝えることに心掛け、社内で取組む様々な面白い仕掛けに感心しました。ネットではなく手書きの壁新聞や、行動を表彰する「イチオシ表彰」また、経常利益の4分の1を社員に均等還元する制度など、社員一人ひとりとしっかり向き合い、心に伝わる経営をしていきたいという橋本社長の言葉が私の心にも響きました。

は全体会で総会議案が提案された後、19の分科会で方針を深めました。懇親会では、全国の仲間と交流しながら愛知の名物料理を味わいました。

二日目の全体会では議案が承認され、鋤柄修氏が会長を退任し、新会長に広浜泰久氏、新幹事長に中山英敬氏が就任しました。広浜新会長は所属する同友会の立ち位置を正しく認識すること、同友会理念を實踐で語ること、同友会を内外に広めることを提起し、「学んだことを徹底的に実践し屈託なく取り組みましょう」と挨拶を述べました。

続いて、「中小企業と同友会の強みを生かす～経営者として、同友会のリーダーとして誇りを持って～」と題して、中山氏をコーディネーターに鋤柄氏と広浜氏が時代認識と企業経営について対談しました。

参加された方々の感想が届きましたので、紹介します。

(株)吉村の企業理念は、「想いを包み、未来を創造するパートナーを目指します。」です。お客様も社員も包み込む、橋本社長の深い愛情、博愛の精神が素晴らしい会社づくりの原動力であると感じられる大変貴重な体験になりました。

橋本社長には、この分科会が縁で、11月に開催される山形同友会の経営研究集会でも、ご講演していただくことになりました。皆さんも是非この感動体験を味わってみてください。





やっぱり暑い名古屋！そんな中、私が参加したのは第7分科会で、テーマは共に育つ。株式会社吉村の橋本久美子社長が「ひらがな経営」で社員がキラリという演題で報告してくださいました。

演題に惹かれてこの分科会を選んだわけですが、何となく想像できるようにひらがなで伝える仕掛け、つまり社員全員に会社がやろうとしていることがきちんと伝わ

(株)ベーカリー中村屋 代表取締役 志田 清志

第4分科会「経営のあり方を問い、不離一体の姿勢を学ぶ経営指針づくり」に参加しました。同友会における指針づくりをいかに自社と同友会において不離一体化していくことが大事かというお話でした。

How To「やり方」ではなく自身で経営の「あり方」を考え尽くし、そして行動すること。

真の謙虚さは、最も貪欲に問題の本質に迫ることが出来る第一歩であること。必ず、行動の後は振り返りを行うこと。社員との関係性と好循環をつくる仕事。Goodサイクルは「関係」作りから「思考」「行動」「結果」へと進めた方が良い。Badサイクルは「結果」から「関係」「思考」「行動」へと進めることで関係性は悪くなっていく。社員を雇うことが最大の会社の責任であること。といったことが印象に残りました。

グループ討論では「なぜ、経営指針は必要か？」ではじまり、「ぶれない経営をするため」「見方が広がる、課題が見える」「経営迷子にならないために、どこにいる？どこへいく？どうしたらいい？」「事業承継のときに必要」「自社の将来性と社会の結び付きはどうか？」など様々な意見が出され時間が過ぎるのが早く感じられました。

2日目の「中小企業と同友会の強みを生かす」というタイトルでの対談からは、「社長の役割とは何か？」「先見性

る仕掛けがいくつもあり、それによって生産性を上げ、出た利益は均等還元(定期賞与とは別に)ということで、社長も新入社員も同額現金支給する取り組みなどが報告されました。橋本社長は秋に行われる県の研究集会の分科会でも報告してくださる予定なので、詳しくはそちらでお楽しみを。

分科会の次は懇親パーティーが行われ、1日目が終了するのですが全国大会の楽しみはこの後に、山形からの参加者だけで地元の居酒屋などに集まり、美味しい料理とお酒を囲みながら本日のふり返しを行うことです。今回は前情報もなく名古屋コーチンのお店に突撃したのですが、個室だったので騒がしくなく、しかも料理が美味しく大正解(大盛会!?)でした。皆様も全国行事にご参加くださいませ！

を持つこと＝現状認識、分析、計画書を書く」「社員の将来に責任を持つこと」「資本を増やすこと」「社員を教育すること」「取り組むべき所からキチンとやる」「機会損失を無くす」「誰がいつまでやるかを決める」「役員になると学びが多くなるから同友会役員には率先してなること」「社長の公私混同が社員をダメにする→金と時間」「10年ビジョンを創ろう」「経営指針をキチンと創ろう！」ということが印象に残りました。

また、経営指針をつくっても「うまく行かない理由」としては、①労使関係が良くない②綺麗事だけで現実に合わない→希望と現実、建前と本音③社長と幹部だけで創った指針→ある日突然言われて社員は茫然としている④途中で止めてしまう、が挙げられ、社員を巻き込んで時間をかけて作り上げた方が一丸となり進みやすいことを学びました。



行政と共に地域を経営

ここに生まれて良かったと実感できる地域をつくる



同友会では中小企業憲章や中小企業振興基本条例を推進するため6月を推進月間として、各地で取り組みが行われています。山形同友会では7月18日に山形県産業創造支援センターに於いて中小企業憲章・条例学習会を地域活性化委員会主催で開催しました。当日は、山形同友会会員、市議会議員、行政、金融機関の方30名が参加しました。

冒頭、主催者を代表して越前屋委員長が「同友会では経営指針づくりを進めているが、少子高齢化・若者の流出と外部要因が非常に厳しくなっている。中小企業振興条例を活用して市町村の未来を理解し、企業と地域を活性化していきたい」と挨拶しました。

講演では「憲章・条例の推進は『三つの目的』の総合実践」と題して、宮城同友会副代表理事の佐藤全氏(株)ヴィ・クルー代表取締役)に、白石市の中小企業振興基本条例制定と制定後の取り組みを報告していただきました。

企業づくりの取り組み

はじめに佐藤氏は「私達は『三つの目的』をめざしているが、三つ目の『よい経営環境』は『よい会社』『よい経営者』の実践を進めた結果でもあり、一社ではどうにもならないことでもある。後に回しがちだが、みんなでやっていたかなければならない大切なこと」と述べました。

佐藤氏が所属する白石蔵王支部は2003年に発足。「我々が地域を元気にする」という気概を持って経営指針の成文化と実践、人材の採用と育成に力を入れてきました。共同求人活動では地域の若者に地元企業の魅力、生きがい・働きがいを伝える活動として支部で積極的に取り組み、企業づくりを進めてきました。

原因は自分達にある

条例制定運動は2012年に先進的な地域を視察しようと別海町(北海道)を訪問したのが始まりで、その後

ヨーロッパ小企業憲章を学ぶためにフランスを視察。行政も民間も皆が地域の視点で主体的にかかわっていると感じ、企業が地域で自立し、強みを出し合って連携ができるのではないかと考えます。

そして、東北大学地域イノベーション研究センターと地域分析調査に取り組んだ結果、商圏の崩壊、若者の流出が明らかになりました。佐藤氏は「いい職場がない、賃金が安いと地元を離れるのは我々がしっかりと魅力を伝えきれていないから。子ども達が地域にいる間に帰ろうと思う跡を残す必要がある。また中小企業で働くことを親が反対している。これも中小企業で働いている親が会社に対して厭な思いを持っているからで全て自分達が原因。だから我々がやることはたくさんある」と強調しました。

条例を活かして地域づくり

調査報告会には白石市の行政の方々も参加し危機感を共有。それらの地域課題が盛り込まれた白石市中小企業振興基本条例は2014年3月に制定されました。同友会からの提案が通ったことについては「地域内での共同求人があったこと」「地域の若者を採用し共育し続けてきた実績があったこと」「地域の中のリーディングカンパニーに成長していたこと」「企業誘致の限界」を挙げました。

制定後には「産業振興会議」を設立。第1次産業・第2次産業・第3次産業の課題解決に向けた取り組みを行ってきました。それぞれに役割があり、行政と共に地域を経営していく。その戦略本部が産業振興会議でPDCAを回して進めてきました。

今、地方創生推進交付金を受け、6次化法人を設立し、食の知拠点をめざして取り組んでいます。今後の展望としては「1次産業・2次産業・3次産業の課題を捉え解決していく総合戦略本部としての使命を全うしていく」「U・Iターンに積極的に取り組む」「産学金連携をさらに深め白石らしい仕事づくり、産業創出を行う」ことを挙げ、「ここで生まれて良かったと実感できる地域をつくりたい」と語りました。



8月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

山形支部

仲間を深く知ろう!ビアパーティーですよ! 日本酒(山形文化)を楽しむ会

2017.8.24(木)18:30~21:00

場所: 酒肴のとや喜兵衛

山形市十日町4-2-3 ☎023-631-1106

会費: 5,000円

「利き酒でわかる日本酒の造り手の思いと、美味しい楽しみ方」
特別講師: 東北銘醸株式会社(酒王初孫) 営業部次長 今野 学氏

8月例会は、より深い関係(仲間)を築き、同友会で共に学び、共に成長するための例会として、わいわい楽しみながら飲みながら仲間を作っていけば、普段は言えない経営の悩みや苦労、未来への夢を語る事ができ、「同友会を活かそう」という、例会です。

今回はビアパーティーですが、日本の文化・山形の名産品である山形地酒をより楽しくいただくために、知ってこそよくわからないことが多い「日本酒造り」や「日本酒の種類」を学びながら、日本酒を楽しむ例会です。試飲して日本酒の奥深さに触れ、より美味しく日本酒を飲むことで、2017年度後半戦に臨むために、鋭気を養いましょう。もちろんビールもハイボールもワイワイ飲んで楽しみましょう。是非、お友達も誘ってご参加ください。

さくらんぼ支部

労働時間はキチンと把握していますか? ~第三の電通事件にならないために~

2017.8.22(火) 18:30~21:00

場所: まなびあテラス 講座室

東根市中央南一丁目7-3 ☎0237-53-0223

報告者: 社会保険労務士法人ルート企画 代表社員 菊地仁士氏

私達は電通という言葉からどのようなことを思い浮かべるだろうか?過重労働が原因で過労死した女性のイメージは誰もが思い浮かぶ最近の出来事。労働者から始まる不平不満がトラブルを招き、今や行政も司法もそして国民も全てが労働者の味方についている状態。経営者自身、今までのやり方では、明日にでも起こる可能性のあるトラブルを回避できないことが起こり得るかもしれません。

この度のさくらんぼ支部8月例会では、社会保険労務士の菊地氏の視点から、今後新たに進む法規制に対応するためにアドバイスと実例を交えてお話いただきます。中小企業家である経営者自身何を直視しなければならぬのか、何からなら手を付けられるのかを、一緒に考えましょう。

備えあれば憂いなし、起こってからでは遅い、今すぐできるポイントを考え明日から変革しませんか?ぜひ、お問い合わせの上でご参加ください。

庄内支部

同友会の会員が増えなくて困っています 飲みながらでいいので相談に乗ってもらえませんか?

2017.8.25(金)18:30~21:00

(18時よりウェルカムビール有りますので早く来て下さい)

場所: お好み焼き 安藝

鶴岡市東新斎町12-10 ☎0235-22-3063

会費: 3,000円(飲み放題+鉄板料理)

「同友会はいい会だ」「ためになる会だ」と参加している会員さんはみんな言います。しかし、ここ数年庄内支部の会員はずっと50数名で増えもせず減りもせずという状況が続いています。いい地域をつくるにはいい会社が連携していくことが大切です。もう少し増えて60名くらいになると学びもさらに深まり、新しい仕事などでもっと連携ができていくことと思います。

そこで、今回の例会では同友会のいいところ、改善点などをざっくばらんにテーブルに広げて、仲間づくりについて考えたいと思います。お客様づくりのヒントになることもあると思います。ぜひみなさまの知恵をお貸し下さい。m(_ _)m

寒河江支部

創業258年の老舗企業の後継者として 何を未来へ繋ぐのか

2017.8.22(火) 19:00~21:00

場所: 寒河江市技術交流プラザ

寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者: 株式会社島屋 取締役 阿部巧氏

創業1759年に呉服屋として創業した株式会社島屋。時代と社会環境の変化に対応し続け、取扱い品目を変えながら、現在は学生服やお祭り用品の販売など地域に密着した経営を続けています。

これまでの歴史と歴代が大切にしてきた想いを振り返り、これから後継者として何を残し何を未来に繋ぐのか、苦悩しながら実践に取り組む阿部氏の報告です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

置賜支部

50年先を見据えた組織づくり

2017.8.30(水) 18:30~21:00

場所: 伝国の杜 大会議室

米沢市丸の内1丁目2-1 ☎0238-26-2666

報告者: 城北電気工事(株) 代表取締役 伊藤 誠氏

置賜支部8月例会では、山形支部から城北電気工事(株) 代表取締役 伊藤誠氏をお招きし報告していただきます。伊藤氏は、自らが実行委員長となった同友会の定時総会の中で「社員年表を作成すると、見えない未来から見えることがある」という話を受けて、50年年表を作成。そこで自分が70歳を超えた時、今いる社員に対して責任を取れないという現実を知り「事業承継」が自社の課題だと実感。そこから、自社の継続と発展のため採用と育成に力を入れます。社内会議、委員会活動、キャリアパス制度の導入、新卒採用などを通し、社員一人ひとりが成長できる仕組みの構築、社員を巻き込んだ全員経営に取り組んでいます。将来のビジョンを描き、経営計画をもとに社員と実践に取り組む伊藤氏の報告です。ぜひ、お問い合わせの上でご参加ください。

新庄最上支部

2017年度ビアパーティー!

2017.8.3(木)19:00~21:00

場所: 厨ダイニング

新庄市若葉町7-6 ☎0233-23-7417

会費: 4,000円

今年は例年以上に暑い夏となりました。こんな季節にはビアパーティーでクールダウンしましょう!

新庄最上支部ビアパーティーでは、通常例会では聞けないこと・話せないことなどをざっくばらんに語り合い、会員同士のつながりを深めます。

また、今年度の上半期はどうだったか?また、自社企業だけではなく、地域をどうやって発展していくか?などの夢のあるビジョンも語り合います。お知り合いの経営者お誘いあわせのうえ是非ご参加ください。

第3回理事会報告

◆日時:2017年7月12日(水)午後3時~午後5時 ◆会場:山形県産業創造支援センター ◆議長:越前屋副代表理事
◆出席者:(敬称略)西塔、菅原、越前屋、小川、阿部(和)、赤塚、高藤(源)、阿部(敦)、武内、板垣、八代、田中、佐藤(啓)、事務局 矢作、後藤、芳賀

■開会挨拶

西塔代表理事が「出席しなければ損をするという理事会をつくるのは理事の皆さんです。皆さんが率先して同友会を良くしようとしなければ良くならない。全国総会では鋤柄氏より、リーダーシップを学んだ。我々にはリーダーシップが求められる。納得して自ら動くという意味では同友会の学びが役立つ。決めたら必ず達成する。各地同友会が確実に達成すれば全国5万名の目標を達成できる。頑張っていきましょう」と述べました。

■学習会

●報告者:西塔代表理事 ●座長:菅原代表理事

西塔代表理事が社会保険労務士という立場から情勢と業界動向について報告し、その後に討論を行いました。

■報告事項

- 1)第20回女性経営者全国交流会の報告(6/15~16 6名参加)
参加した第2分科会は広島同友会の製造業の会社が社員の潜在能力を発揮しないと会社は良くならないと気づき、経営難から這い上がったという報告で深い学びを得た。記念講演は坂東眞理子氏で、人口減少の時代で女性リーダーの能力を発揮しないと世の中は回らない。女性リーダーの能力を発揮するシステムをきっちりつくる。サービング&インクルーシブリーダーシップということを教えていただき、感性で強調し合い、皆で連携し合って能力を引き出し合うことがキーポイント。自分が積み上げてきたスキルを職場や同友会で発揮して活躍というより、役に立つ、一肌脱ぐということがキーワードと坂東氏も言っていたのでそういった意味で精進したい。(赤塚理事)
- 2)第49回定時総会の報告(7/6~7 7名参加)
まとめで広浜新会長から「同友会の立ち位置が変わった。正しく認識しよう。影響力が大きくなった。期待に応えられる同友会になっているか今一度点検しよう」「同友会の言葉をよく使うだけでなく、実践で語ろう」「同友会運動を周りに広め、会員を増やそう。同友会の良さを会員に広めよう。外部発信を強めよう」というお話があった。(西塔代表理事)
- 3)第1回中同協幹事会(7/7 2名参加)
全国行事の報告事項を受けた後、「代表理事の役割と決意」という事で広浜会長から提起があった。立ち位置と使命を明確にしよう。取り組むべき課題としては同友会理念の体現者になっているかということ。ビジョンを明確にしてリーダーを育成しているか、外部との関係を作っているか、会員増強の計画ができていないか、事務局を育成、理念の共有ができていないか。チェックリストがあったので、理事の方々には経営のツールとしても共有し、これからの山形同友会の有り方について意見交換をさせていただきたい。(菅原代表理事)
- 4)ネット会議について
試験結果も順調だったことから2年契約となるネット会議システムを導入する報告がありました。(菅原代表理事)
- 5)各委員会・部会よりの報告
報告書による文書報告。
- 6)各支部よりの報告
報告書による文書報告。
- 7)2017年度6月月次決算報告(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 1名退会 7/12現在412名

■討議事項

議題1:第33回定時総会のまとめ

実行委員長の小川理事が多数の来賓・ゲストに参加していただき、懇親会においては副知事より同友会からの要望を積極的に受け付けたいと話があったとの紹介を交え、今回の特徴と今後の課題、収支報告を提案し、承認されました。

議題2:2017年度役員研修会(8/18)について

西塔代表理事より講師の国吉氏が「同友会運動の発展のために」を

もとに同友会役員の役割について話をすることが報告された後、学ぶべきポイントについて討議し、「役員の役割とは?同友会理念の体現者とは?」をテーマに広浜会長が作成したチェックシートを活用して進めていく事が決まりました。

議題3:第14回経営研究集会について

佐藤理事より提案があり下記の要項が決まりました。

1)委員会体制について

委員長:佐藤啓氏

副委員長:島田慶資氏、鈴木敬尚氏、吉田昌永氏

委員:(山形)飯野純一、佐藤博之、松岡友路、佐藤一夫、斎藤源(寒河江)加藤聡範、角田浩二郎(さくらんぼ)大山和宏、齊加義三(置賜)井上英明、庄司薫(庄内)成澤克志、金野隆行(新庄最上)佐藤奈緒、涌井洋一(常任理事)越前屋忍、後藤智樹

2)開催要項

●日時:11月16日(木) ●会場:山形国際ホテル

3)企画内容(案)

記念講演:多様な人々に雇用の機会を創出し、働きやすい就労環境づくりに努める

講師:(株)アイエスエフネット 代表取締役 渡邊幸義氏

分科会:(企業づくり):(株)吉村 代表取締役社長 橋本久美子氏(東京同友会)(エネルギーシフト)未定

(中小企業向けITソリューション)一般社団法人山形県情報産業協会協力

議題4:事務局について

西塔代表理事が、3月21日より事務局で働いている事務局員の芳賀さんを試用期間満了で正規事務局員にすること、事務局の夏季賞与の支給、事務局退職規定の訂正案を提案し、承認されました。

■その他

- 1)きらやか銀行さんより「都市対抗野球本戦応援のお願い」について理事に協力の要請がありました。
- 2)今後の予定

幹部社員研修 第1講	7月13日(木)18:00~ 山形ビッグウイング
憲章・条例学習会	7月18日(火)13:30~ 産業創造支援センター
役員研修会	8月18日(金)13:30~ 産業創造支援センター
2017経営労働問題全国交流会	8月31~9月1日(金)京都
中同協・経営労働委員会	9月1日(金)京都
北海道・東北ブロック支部長地区会長交流会	9月7~8日(金)函館
北海道・東北ブロック代表者会議	9月8日(金)函館
中同協共同求人・社員教育合同委員会	9月7~8日(金)東京
第45回青年経営者全国交流会	9月14~15日(金)茨城
中同協・第2回幹事会	10月5日(木)東京
2017組織強化・増強・拡大全国交流会	10月5日(木)~6日(金)東京
中同協・役員研修会	10月26日(木)~27日(金)福島

3)第4回理事会日程

●日時:8月9日(水)午後3時~午後5時

●会場:山形ビッグウイング

■閉会挨拶(菅原代表理事)

役職変更

●山形印刷(株) 営業部業務推進部長
→取締役営業部長 岡崎正悦氏(山形支部)

会員名変更

●(株)メコム 常務取締役 浅田茂男氏(山形支部)
→取締役GM 鍛冶 修氏(山形支部)





山形県中小企業家同友会

委員会だより

2017 年度第 3 号 2017.8.1 発行
山形県中小企業家同友会
山形市南館 3-26-26 スタジオアヴェン 102 号
TEL : 023-645-5500
HP : <http://yamagata.doyu.jp/>

【社員共育委員会】

「若手の離職について考える」

社員共育委員会では毎月第 3 水曜日に委員会を事務局にて開催しています。その中で「学習会」という時間をとり、決められた報告者が問題提起をし、討論しています。先月は K 社長から、「若手の離職」について問題提起をして頂きました。

.....

- 「昨年入社した 2 名が 1 年以内に辞めてしまった」
- 「1 人が人間関係、もう 1 人が仕事に魅力を感じていないとの理由で退職」
- 「誰にも相談せず直接社長へ退職届けを出された」
- 「2 人には会社での自分の存在意義を感じられないという共通点があった」
- 「もっと社員に介入するため、家庭訪問、日報でのコメント欄導入等の取組みを始めた」と報告があり、再発防止にはどう取り組むべきか問題提起がありました。

討論では

- 「日報は社長が全部社員に対してコメントしているのか？」
 - 「日報は上司・部長・社長ではそれぞれ価値判断が違うため、社長だけでなくそれぞれにコメントしてもらった方が効果的ではないか」
 - という部分的な話から組織運営の話へと変わり
 - 「個々の対応ではなく組織として新入社員を受け入れる風土を形成する必要があるのではないか」
 - 「社員の悪い部分だけでなく長所を見つけられるような人間力を磨く（社長・幹部から）必要があるのではないか」
 - 「ベテラン社員が新入社員を育てる意識（言葉づかい・礼儀等細かいところから）。社長→幹部→社員とまずは上から意識を変えていく必要があるのではないか」
- など、様々な意見が出され、組織運営の重要性について考え合いました。

K 社長からは

- 「2 名の若手が辞めてしまったが、経営の右腕となる者が成長してきている。力を合わせてもっと良い会社にしていきたい」とありました。

10 名足らずの組織では経営者が社員に及ぼす影響は大きいのでもっと幹部社員と向き合い、話し合い、指導を重ね、インターンシップなどの仕組みを取り入れながら社員教育を推進し、新入社員を受け入れ、教育できる組織を構築していく必要があるのではないかと学びあいました。

.....

こんな学習会をしています。
自社の経営課題をお持ちになってゲスト参加してみませんか？



【経営指針委員会】

「修了後の参加は大きな気づきを得るチャンス」

7月の委員会では、経営指針をつくる会「第4講」の振り返りを行いました。昨年の受講生より意見をいただきました。

昨年は、話を聞くだけで精一杯で、冗談も理解出来なかった。今年は実践しているからこそ、「自社ではどうか？」今抱えている悩み、課題とリンクさせて奥山先生の講義を聞く事ができた。「マーケットサイズ」「仕事の効率」等、改めて検討しなければならない気づきがあった。

お話の中で紹介された「トヨタ生産方式」を学び、自社で社員の現状の実力が一目でわかるように掲示し、社員の成長を共有することを実践し始めた。

上記の様に、大きな気づきを得ることができ、経営指針を実践しているからこそ、生きてくる。あいまいな計画ではなく、より具体的に、しっかりと情報分析をし、決断し実行することの大切さに改めて気づいた。

「雇用の確保が課題の今、採用について考え合う」

学習会では、大きな経営課題となっている雇用の確保が取り上げられ、討論が行われました。

「今年は採用活動が、うまくいっていないという」

「実際に、合同企業説明会に参加してもなかなか学生がこない」

「説明会では自社の説明をする会社が多いが、上手くいっている会社は自社が置かれている業界の話しをメインにするとのこと。改めて社会に貢献できる会社であると説明する大切さに気づいた」といったお話も紹介いただき、

各社の採用の取り組みについて交流しました。

「一度辞めた社員が戻ってきて、働くことをどう思うか？」

との問いに、賛否が分かれました。

「外の会社に行って、初めて自社の良さを実感するのは」

との発言に、指針書を軸に人を活かす経営を行ってれば、社員の心に残り、思い出してくれる。

辞める時も、大きな心で、怒るのではなく、寛容な心で送り出すことが求められているのではないかと、気づかされました。

人材不足という厳しい現状ではあるが、未来には人が必要でなくなる時代が来る。

しかしながら、人にしか出来ない仕事を行う為にも、経営者として人を活かす経営をする意義を改めて実感した。

